

財団法人 妻籠を愛する会



文政文化風俗絵巻之行列 毎年11月23日(祝)に行われる妻籠宿最大のイベントです。妻籠宿保存事業起工を記念して昭和43年から行われています。

評価のポイント

昭和30年代の高度経済成長期に地域から若者が流失し過疎化が進行する中、「財団法人妻籠を愛する会」では、妻籠宿全体に文化財的価値を見出し、町並みそのものを保存するという発想を地域住民に粘り強く説き、行政・議会、学識経験者等の理解と支援を求め、妻籠資料保存会や観光協会などの組織の発足や町による妻籠宿の保存と活性化の推進、学術調査の活発化につなげるなど、保存活動の中心的役割を担ってきた。

道路や鉄道の整備により一旦は宿場としての機能

を失った妻籠宿において、町並みの「保存」という当時ほとんど考えられなかった発想による観光開発に活路を見出し、「売らない。貸さない。こわさない。」という基本方針を住民憲章に掲げて保存活動に邁進した結果、文化財としてその名が知れ渡るに至り、地域の活性化に貢献している。本事例は、過疎化への対抗策として早期に景観保全を位置づけ、住民自身の力、そして学識経験者や行政のバックアップによって「美しく風格ある国土」に資する地域の形成を実現した先駆的取り組みであり、このような点が評価された。

売らない・貸さない・こわさない

妻籠宿(つまごしゅく)の町並み保存



中山道整備作業 住民の参加により歩道を整備し、快適な中山道を維持しています。多くのハイカーがウォーキングを楽しんでいます。



冬期大学講座 本郷の現地説明会。町内外から多くの方に参加していただきました。



冬期大学講座 観光客の少ない冬期に地元住民を対象に、昭和52年から保存・観光・歴史などについて学習する講座を開設しています。



ウォーキングブームで妻籠宿・馬籠宿間の中山道を歩く観光客が増加しています。最近は外国人のハイカーの姿も目立ちます。

事例の概要

◎南木曾町は長野県南西部にあり、江戸時代に交通の要衝として賑わい誇っていた妻籠宿は、明治以降、国道や鉄道の整備により宿場としての機能を失い、衰退の一途をたどっていた。「妻籠を愛する会」は昭和43年に、妻籠宿を保存しようと地域住民の組織として発足、昭和58年に財団法人化され、住民・行政・学識経験者の協働に根ざした町並み保存活動の中心的役割を果たしている。また、景観・町並みの保全活動を行うのみならず、防火、防災、防犯組織としての活動も主体的に取り組んでいる。

◎幕末時代の妻籠村の大部分1,200ヘクタール余りの広大な地域に自然環境・街道・在郷・宿場等が残されていることから、町並みの保存を通じた観光振興に活路を見出し、家や土地を「売らない。貸さない。こわさない。」を理念とし、景観・歴史的風土を守りながらそれらを観光的に利用していく活動を実施している。妻籠の歴史を伝承するため、毎年冬期大学講座を実施しているほか、中山道沿線のウォーキングを楽しむ観光客のための環境整備にも力を注いでいる。

長野県 南木曾町(なぎそまち)



国勢調査人口

昭和35年	昭和45年	平成7年	平成12年	平成17年
10,771	8,020	6,112	5,687	5,238

人口増減率

H17/S35	H17/S45	H12/H7	H17/H12
-51.4	-34.7	-7.0	-7.9

交通のご案内

自動車・中央自動車道中津川 ICから国道19号経由30分
飯田山本ICから国道256号経由45分
鉄道・JR中央西線南木曾駅からバス10分、徒歩60分
飛行機・中部国際空港から車で2時間30分

団体連絡先

財団法人 妻籠を愛する会
〒399-5302
長野県木曾郡南木曾町吾妻2159-2
TEL/0264-57-3513
URL/http://www.tumago.jp/